
研究資料

トルコ共和国のバスケットボール(第1報) トップリーグの運営システムとクラブの予算に着目して

出町 一郎¹⁾

Basketball in the Republic of Turkey (the first report): Focusing on management system of the top league and club budgets

Ichiro DEMACHI ¹⁾

Abstract

This study explores the competition management system, training system, and training policy of different age groups of basketball players in the Republic of Turkey. The research employed a survey method to assess the systems related to basketball playing, including development organizations, as well as interviews with various stakeholders.

A field survey was conducted in February 2013 to gather observation-based information. Interviews were conducted with club managers and others.

This first report focused on professional basketball. An analysis of the data revealed that Turkey has three division systems for the Men's League and two for the Women's League. It has a regular season and a playoffs tournament. The regulation and registration of foreign player contracts, as well as club budget and average salary data of players, are also discussed.

This comprehensive survey of Turkish basketball provides empirical data that will be useful to sport scientists, coaches, persons in charge of each top league, and those in charge of developing basketball players in studying and building competition and management systems.

Key words : Competition System, Regulation, National Team, Foreign Player, Contract

キーワード : 競技システム, レギュレーション, ナショナルチーム, 外国人選手, 契約

1) 専修大学兼任講師

はじめに

トルコ共和国（以下「トルコ」と略す）のバスケットボールは世界でもトップレベルである。例えばトルコの男子代表は世界ランキングで2013年9月時点で7位、2017年10月時点で13位であり、2010年の世界選手権では準優勝している。女子代表は世界ランキングで2014年12月時点で11位、2017年8月時点で7位であり、2011年の欧州選手権で準優勝するなど、男女とも好成績を残している。

一方、トルコのバスケットボールの国内リーグは近年内外の有力選手から注目されている。NBAで得点王を4度獲得したアレン・アイバーソン選手とBesiktas^{注1)}との2010年の契約が象徴的である。また例えば、2016-2017年シーズンの男子1部リーグのベスト4のクラブの選手53人のうち、各国の代表選手の経験あるいはNBAのチームとの契約の経験を調べると、トルコ代表の経験がある選手は16人、セルビアなど他国の代表経験がある選手が15名、NBAのチームに所属した（もしくはこのシーズン後契約した）経験がある選手が15名いた^{注2) 注3)}。各国代表選手とNBA経験の重複をしている7名を勘案すると、53名中39名（約74%）が各国代表またはNBAの経験があることになり、各国の有力選手が関心を持っているリーグの一つと言えるであろう^{注4)}。

トルコのスポーツに関する研究としては、トルコで最も人気のあるスポーツであるサッカーについて佐野（2007）がトルコのサッカーによるトルコ人とトルコ国外居住のトルコ系住民のアイデンティティに対する影響を推察している。諏訪（2009）は、トルコのサッカーを通して日本人とトルコ人の比較を試みている。その他の種目に関しては、トルコでの合気道の伝播・普及の初期プロセス等の報告（石井ほか、2012；石井、2013）や、松本（2003）によるトルコの民族舞踊に関する報告がある。トルコのバスケットボールに関しては、野寺ほか（2011）の女子学生選抜チームのトルコへの遠征の報告がある。しかし、トルコのバスケットボールにおける育成システム、トップレベルのリーグの

運営等に関する研究は見当たらない。

そこで本研究はトルコのバスケットボールの選手育成システムやその考え方、あるいはトップレベルのリーグの運営方法等を網羅的に調査し、基礎資料を得ることを目的とした。本稿（第1報）ではそのうち、トップレベルのリーグに関して外国人選手登録制度や各種レギュレーションを含めた競技・運営システムと、トップリーグに所属するクラブの運営予算と選手給与の2点を明らかにすることを目的とする。

Ⅱ. 方法

1. 調査時期と方法

2013年2月7日から24日までトルコで視察・調査を行った。現地ではスポーツクラブのバスケットボールのセクションあるいはバスケットボールクラブにおける各カテゴリーのチームの公式戦、練習試合、練習を視察した。そしてスポーツクラブあるいはバスケットボールクラブの経営者、GM、コーチ、トレーナー、選手の保護者等にインタビューを行った。またトルコ代表チームのコーチ、トルコバスケットボール連盟の数名の職員にもインタビューを行った。それと並行して、トルコのバスケットボールに関する資料や映像を収集した。帰国後も必要に応じて、日本から追加の質問・確認・インタビューを行った。こうして視察・インタビューや資料等で得たデータや関連する研究を基に分析を行った。

本稿ではトルコ語の表記はフルネームなどの最低限にとどめた。またトルコ語表記の一部は、トルコ語のアルファベットのうち英語のそれに無いものを英語のアルファベットに置き換えたものもある。また各種の金額は現地調査当時のレートにならない、1トルコリラを50円として、1ドルを93円として算出した。所属や肩書は現地調査当時のものである。

2. 視察・調査したクラブとそのチーム

表1が今回の調査で視察したクラブとそれに含まれるチームである。トルコ語を一部英語表記に

直してある。「女子」の表記がないところは全て 男子である。

表1 本調査で視察したクラブ・チーム

クラブ名	Anadolu Efes SK	Galatasaray	Fenerbahce Ulker
チーム名	A Team	A Team	A Team
	Pertevniyal Team A	A Team(女子)	U-18
	Pertevniyal Junior Team	U-18(女子)	U-16
	U-18	U-16(女子)	U-12
	U-16		
	U-14		
	U-13		
	U-12		
	U-11		
	U-10		

3. トルコのバスケットボール概観

トルコは地理的にはアジアとヨーロッパの両大陸にまたがる形で存在するが、バスケットボールのIFである国際バスケットボール連盟（FIBA）の分類ではアジアではなくヨーロッパのエリアとなっており、FIBA Europe という欧州を管轄する部門に属する。トルコ国内にいくつかあるいわゆる“ビッグクラブ”の資金は近年潤沢であり、その一部のクラブの予算はヨーロッパの他国のビッグクラブと比べても引けを取らない。

トルコ代表チームの近年の主な成績は表2の通りである。2000年以降の主要な国際大会について男女別にまとめた。

国際バスケットボール連盟（FIBA）は各国の代表チームのランキングを発表している。それによれば、トルコ男子は2013年9月時点で世界ランク7位、2014年12月時点で8位、2017年10月時点で13位ある。トルコ女子は2013年11月時点で13位、2014年12月時点で11位、2017年8月時点で7位である

Ⅲ．結果と分析

1. トップレベルの競技・運営システム

トルコのトップレベルの競技・運営システムについて述べる。2012-2013年シーズン及び2013-2014年シーズンについてのものである。インタビューのデータは現地調査時のものである。またここでいうトップレベルというのは各年齢カテゴリーの成績上位という意味でなく、年齢の区切りの無い全体の中での最上位レベルという意である。

男子は公式のリーグは3部制になっている。女子は2部制である。レギュラーシーズン（女子2部の場合は2つ目のステージまで）はホームアンドアウェイで試合が行われる。

男子1部リーグには16クラブが所属する。男子1部のシーズンの時期は2012-2013年の場合、レギュラーシーズンが10月中旬から5月中旬までで、プレイオフが5月中旬から6月中旬までであった。2013-2014年シーズンの場合、レギュラーシーズンは10月中旬から5月上旬までで、プレ

表2 トルコ代表チームの2000年以降の主な成績[†]

開催年	大会名	男子トルコ代表	女子トルコ代表
2000	シドニーオリンピック		
2001	欧州選手権	準優勝	
2002	世界選手権	9位	
2003	欧州選手権	12位	
2004	アテネオリンピック		
2005	欧州選手権	9位	8位
2006	世界選手権	6位	
2007	欧州選手権	11位	9位
2008	北京オリンピック		
2009	欧州選手権	8位	9位
2010	世界選手権	準優勝	
2011	欧州選手権	11位	準優勝
2012	ロンドンオリンピック		5位
2013	欧州選手権	17位	3位
2014	ワールドカップ ^{††} /世界選手権	8位	4位
2015	欧州選手権	14位	5位
2016	リオデジャネイロオリンピック		6位
2017	欧州選手権	14位	5位

† : 斜線は出場できなかったことを意味する。

†† : 男子の方はこの年から大会名称が世界選手権よりワールドカップに改称された。

イオフは5月中旬から6月中旬までであった。男子1部リーグの試合形式はレギュラーシーズンはホームアンドアウェイで総当たりの30試合が行われる。ここでの上位8クラブがプレイオフに進むことができる。プレイオフは勝ち残りの方式で戦う。クォーターファイナルでは3戦中先に2勝したクラブが勝ち残る。セミファイナルでは5戦中先に3勝したクラブがファイナルに進出する。ファイナルでは7戦中先に4勝したクラブが優勝となる^{注5)}。男子1部リーグのレギュラーシーズン

で15位と16位になった、リーグ成績下位2クラブと男子2部リーグの成績上位2クラブは翌シーズンに所属リーグが入れ替わる^{注6)}。男子1部リーグではレギュラーシーズン期間中は原則として各クラブとも1週につき1試合ずつゲームが組まれる。ただし、このトルコ国内リーグのほかにも大会があり、それがこのリーグ戦の合間を縫って行われる。

男子2部リーグには2012-2013年シーズンの場合、18クラブが所属していた。10月から4月末

までがレギュラーシーズンであった。ホームアンドアウェイで総当たりの形式で1クラブあたり34ゲームを行う。その後にプレイオフが行われる。プレイオフにはレギュラーシーズンの成績上位8クラブが進出する。クォーターファイナルとセミファイナルは先に2勝したクラブが次のステージに進むことができる。ファイナルは1試合のみである。ファイナルはおおよそ5月末ごろまでに行われる。男子2部リーグのレギュラーシーズン成績下位の3クラブは下部のEBBLへ降格する^{注7)}。

男子3部リーグは2011-2012年シーズン以降2013-2014年シーズンまでは二段階になっている。まずトルコ国内の各地域でリーグ戦が行われる。年によるが70—80クラブ前後の参加がある。このリーグはEBBLと称され2006年に設立された。そしてそのうちの上位36クラブが6つのリーグに分かれて再びリーグ戦を行う。こちらのリーグはTB3Lと呼ばれる。この二つのリーグの試合を同じシーズン中に行う。そしてさらにプレイオフのようなポストシーズンゲームを行って、その成績上位のクラブが2部リーグに昇格するという仕組みである^{注8)}。

女子は2部制である。女子1部リーグには14クラブが所属する。レギュラーシーズンはホームアンドアウェイで26試合を行う。その成績上位8クラブがプレイオフに出場できる。プレイオフは勝ち残りの方式で行われ、プレイオフ1回戦（クォーターファイナル）は3戦中先に2勝したクラブが勝ち上がる方式である。セミファイナルとファイナルは5戦中先に3勝するまで行う方式である。レギュラーシーズンは年によるが10月の中旬から下旬に始まり、3月末ごろまで行われる。プレイオフは年によるが3月下旬か4月上旬ごろ始まり5月上旬ごろまで行われる。またレギュラーシーズンで成績下位の2クラブが翌シーズンは女子2部リーグに降格する（TÜRKIYE BASKETBOL FEDERASYONU, 2013b, p.19）。

女子2部リーグは、年によって違うが30クラブ前後が参加し争われる（2012-2013年シーズンは28クラブ、2013-2014年シーズンは26クラブが参加）。女子2部リーグの試合の形式は3ステー

ジ制となっている。最初のステージでは、参加全クラブが3つのグループに分かれて総当たりホームアンドアウェイで試合を行う。そして各グループ上位6位までの計18クラブがセカンドステージに進むことができる。この時点で各グループの7位以降のクラブはシーズン終了となる。2番目のステージでは新たに6クラブずつ3つのグループに分かれて、総当たりホームアンドアウェイで1クラブあたり10ゲームの試合を行う。このセカンドステージで各グループの上位2クラブずつ計6クラブが最終ステージに進むことができる。最終ステージではこの6クラブが総当たりで試合を行う。このステージはホームアンドアウェイではなく、一つの会場に全クラブが集まり試合を行う。同じカードは1試合のみである。したがって1クラブあたり5ゲームを行う。これらの試合は、約1週間ほどの期間に集中的に開催される。この最終ステージの成績上位2クラブが次のシーズンに女子1部リーグに昇格する^{注9)}。いずれのリーグでも後述する外国人選手の契約・登録等の規定を除けば、原則としてFIBAが定める規約にほぼ則って試合が行われる。

シーズン半ばで、男子1部リーグではオールスターゲームが行われる。例年1月中旬—下旬前後に行われることが多い。リーグに所属するトルコ人選手の選抜チームと外国籍選手の選抜チームが対戦する。試合の前にはダンクコンテストや3ポイントシュートコンテストも行われる。女子1部リーグでもかつてはオールスターゲームが行われていたが2012年1月を最後に行われていない（Turkish Basketball Federation, online）^{注10)}。

この他の大会としてターキーカップ（Türkiye Kupası）がある。前述のリーグとは別の大会である。男子の方は1部リーグ所属の16クラブが参加する。まず4クラブずつ4グループに分かれ総当たりで試合を行う。通例10月初旬に1週間ほどの間に集中的に試合を行う。グループごとに同じ会場を使うことが多い。この各グループで成績上位の2クラブずつ計8クラブが、勝ち残りの方式でクォーターファイナル、セミファイナル、ファイナルと1試合ずつ戦う。これは通例2月

上旬に4日ほどかけて同一会場で集中的に行われる(TÜRKİYE BASKETBOL FEDERASYONU, 2013a, pp.20-22)^{注11)}。

女子のターキーカップには女子1部リーグ所属の14クラブが参加する。前シーズンのリーグ戦の成績上位2クラブは予選を免除される。従って他の12クラブが予選に参加する。予選では4クラブずつ3グループに分かれ総当たりで試合を行う。この予選は10月前後に集中的に行われる。そして各グループごとに同一の会場で試合を進める。各グループの成績上位2クラブ計6クラブと予選を免除された2クラブの合計8クラブが次のステージに進出する。次は勝ち残り方式でクォーターファイナル、セミファイナル、ファイナルと1試合ずつ戦う。このステージは年により12月または1月または3月に行われる(TÜRKİYE BASKETBOL FEDERASYONU, 2013b, pp.20-21)^{注12)}。

2. トップレベルのリーグの外国人選手の登録システム

ここではトルコのトップレベルのリーグの外国人競技者の登録システムについて述べる。男子1部リーグの場合、まず国籍に関わらず各試合に12人まで選手を登録できる。そして各クラブは6人まで外国人選手と契約できる。そのうち試合に登録できる12人の枠には外国人の選手は5人までエントリーできるというレギュレーションである。その試合にエントリーした外国人選手5人のうち、ヨーロッパ内の国の国籍の選手を最低一人入れなくてはならない。またその5人のうち、試合中に同時にコートに立てるのは原則として3人までである。ここで「原則として」と書いたのは、例外があるためである。例えばコート上の5人の選手全員を外国人選手にすることもできるが、その場合リーグ本部に対し特別な費用を支払う必要がある。このお金はいったんリーグ本部に入った後で、コート上の外国人選手を3人以内におさえてプレイしたクラブに分配される^{注13)}。

男子2部リーグの場合、各クラブは3人まで外国人選手と契約することができる。各試合ごとに

登録できる12人の選手の中で外国人選手は2人までエントリーが可能である。男子3部リーグの場合、外国人選手の枠は無い。

女子1部リーグの場合、各クラブとも5人まで外国人選手と契約できる。そのうち、各試合ごとにエントリーする12人の選手の枠には4人まで外国人選手を登録できる。試合中に同時にコートに立てる外国人選手は最大3人までである。女子2部リーグの場合、各クラブは2人まで外国人選手と契約できる。そのうち、試合ごとに登録する12人の選手枠には外国人選手は1人だけエントリーできる。

3. トップレベルのクラブのバジェットやサラリー

トルコのトップレベルのリーグではサラリーキャップ制度は無い。従って、各クラブの予算や事業規模は各クラブの財政状況によってさまざまである。このあたりに関し、トルコバスケットボール連盟のトップレベルのリーグの担当者にインタビューしてデータを得た。

トルコでは、“ビッグクラブ”とみなされているクラブは5つある。すなわち、Anadolu Efes SK、Fenerbahce Ulker、Galatasaray^{注14)}、Besiktas、Banvitである。Banvit以外は全てイスタンブールにあるクラブである。これらのビッグクラブのクラブ内最上位のチーム(トップリーグに参加しているチーム)の遠征費等を除いた人件費(選手サラリーの合計)は、一クラブあたり年間2500万—3000万ドル(約23—28億円)だという(男子の場合)。これはヨーロッパ全体でもトップクラスの金額である^{注15)}。ビッグクラブ以外の、中規模あるいは小規模のクラブの予算は一クラブあたり年間500万—1500万ドル(約4.7—14億円)だという。従って、男子1部リーグに限れば、バジェット(特にサラリーに絞って)は現地調査年度でビッグクラブとスモールクラブでは最大6倍程度の開きがあるようだ。ここでは選手サラリーのみを比較したが、これ以外の練習環境や遠征費、強化費等も含めると同じリーグ内でもさらに差が広がると思われる。

選手の年俸については、男子1部リーグの場合

は外国籍のスター選手は約1億9000万円程度、トルコ人のスター選手は約1億4000万円程度とのことである。実力がチーム内で6番手から8番手くらいの選手では約2800万—約7400万円程度である。ただし、バジェットの大きい Anadolu Efes SK などでは例外的に実力がチーム内10番手くらいの選手が9000万円以上の契約を結んでいるケースもあるという。

IV. 終わりに

本研究はトルコのバスケットボールの各種システムや環境を詳細に調査・分析しようとするものである。本稿第1報ではそのうちトップレベルのリーグに関し記載した。その結果、トルコのトップレベルのリーグにおける、競技運営システム、外国人選手登録制度などを含むレギュレーション、年俸、バジェットなどが明らかになった^{注16)}。

リーグの仕組みは男子は3部制、女子は2部制による階層制からなる開放的・競争的なスポーツリーグであり、大枠としては欧州の他の強豪国でも比較的広く見られる形であり、これは国際標準といえよう（澤井、2015）。外国人選手登録システムについては契約の人数でいえばトルコ男子一部リーグは6人、女子一部リーグは5人であった。例えば世界トップレベルの欧州他国の一つであるセルビア（世界ランキング男子3位：2017年11月現在、女子8位：2017年8月現在）と比べると、セルビア国内リーグの男子一部は4名、女子一部も2名との契約が可能なので、トルコ国内リーグの外国人選手枠は少なくとも狭い方ではないと言えそうである^{注17)}。また、トルコのビッグクラブにおける2500万—3000万ドルというバジェットの規模は欧州でも最上位であり、年俸がスター選手は約1億4000万円—1億9000万円ということなので、国内・国外の有力選手からも注目されることが理解できる。

したがって、国際標準のトルコ国内リーグの運営システム、比較的広い外国人選手枠、そしてビッグクラブに見られる潤沢な資金が相まって、トル

コをして世界から注目されるリーグにしている一因ではないかと推察される。

以上より所期の研究の目的は達したと考えるが、さらなる研究の余地もある。イスタンブール以外の地方の現地調査が望まれる。またビッグクラブを中心に視察したが、それ以外のクラブの質的調査も必要であろう。

いずれにしてもバスケットボールに関する研究はこれまでアメリカに偏ってきた感があるが、加えてこのトルコや欧州エリアの研究も積み重ねるべきであろう。

注

- 注1) スポンサーの名称も含めた正確なクラブ名は、Besiktas Milangaz（当時）であるが、本稿では一般的な呼称である Besiktas を用いる。2013-2014年シーズンからは Besiktas Integral Forex に変更になり、2015-2016年シーズンからは Besiktas Sompō Japan に変更になった。
- 注2) ここでの「代表」は、年齢や資格の制限のないチームのみを対象とし、それ以外の例えば U-18 代表等の経験は除外した。
- 注3) ここでいう NBA の経験は狭く考えることにし、公式戦の際に契約していたことを指すこととした。そのためドラフトで指名されたが本契約に至らなかった選手や、サマリーリーグやプレシーズンゲームでのみプレイした選手は除外している。
- 注4) 注1注2より、代表経験や NBA 経験を厳しく解釈していることや、20歳前後の若い選手もリーグに所属している中でこの数字であるということに留意されたい。
- 注5) 男子1部リーグは2015年に Spor Toto Basketbol Süper Ligi と改称された。2017年現在の主な競技ルールは調査当時と比して、プレイオフのファイナルだけ7戦中先に4勝したクラブが優勝という方式になった点などが異なるが、それまでとほぼ同様である。
- 注6) 男子1部リーグと2部リーグに関しては、

2012-2013年シーズンから2013-2014年シーズンにかけて2クラブがレギュレーション通りに入れ替わったほかに、男子1部リーグから撤退したクラブが一つあったので特例としてさらに1クラブが2部リーグから1部リーグに昇格した。

- 注7) 男子2部リーグは2015-2016年シーズンよりそれまで男子1部リーグのことを指していたTBLを名称として採用した。2016-2017年シーズンの場合、参加クラブ数やレギュラーシーズンの試合数などは以前と同じである。プレイオフの方式が変更となり、上位8クラブがプレイオフに進出する。4つの対戦カードにおいてそれぞれ5戦中先に3勝した4クラブが次のステージに勝ち上がる。このラウンドでは4クラブが総当たり2回戦を行い、各クラブ6試合ずつの結果で最終順位を決めた。
- 注8) TB3Lの2014-2015年シーズンには24クラブが参加した。これを2グループに分けて総当たり2回戦を行い、各グループ上位2クラブずつ計4クラブがプレイオフに進み、そこでは2回戦総当たりで各クラブ6試合ずつ試合をして順位を決めた。男子3部リーグは、2015-16シーズンから名称をそれまで男子2部リーグのそれであったTB2Lに変更した。参加クラブ数も変わり、2015-2016年シーズンが24クラブ、2016-2017年シーズンが20クラブ、2017-2018年シーズンが25クラブとなった。この20クラブあまりを2グループに分けて、ファーストラウンド、セカンドラウンド、プレイオフというような形式で試合を行い順位を決めている。EBBLはローカルのリーグとして再編成された。実質的には男子4部リーグに相当すると思われる。
- 注9) 女子2部リーグは、2014-2015年シーズンは34クラブが参加した。これを4グループに分けて試合を行い、上位6クラブずつ計24クラブが次のステージに進み、4グループに分かれて戦った。各グループ上位2ク

ラブずつ全8クラブが次のステージに進み、総当たりで順位を決めた。2015-2016年シーズンは24クラブが参加し、2グループに分かれてファーストステージを行い、上位8クラブずつ計16クラブがプレイオフに進んだ。プレイオフファーストラウンドとセカンドラウンドは共に3戦中先に2勝したクラブが次に進める。そして勝ち上がった4クラブが総当たりで順位を決めた。2016-2017年シーズンは20クラブが参加した。レギュラーシーズンはグループ分けをせずに試合を行い、上位8クラブでプレイオフを行った。そこではまず3戦中先に2勝した4クラブが勝ち残り、その4クラブで総当たりで順位を決めた。

- 注10) この時期は後述のターキーカップが行われている。
- 注11) 2015-2016年シーズンから、8クラブの参加によるノックアウト方式1回戦ずつの形式に変更した。これまでは2月に実施されている。
- 注12) 2016-2017年シーズンの女子のターキーカップは8クラブのみが参加し、勝ち残り1試合ずつという方式で2月に行われた。
- 注13) 2017-2018年シーズンは、男子1部リーグでは各クラブとも6人以上の外国人選手との契約が可能で、ベンチ入り（登録）も6人可能である。
- 注14) スポンサーの名称も含めた正確なクラブ名は、Galatasaray Medical Park（当時）だが、本稿では一般的な呼称であるGalatasarayを用いる。2013-2014年シーズンからはGalatasaray Liv Hospitalに変更になり、2015-2016年シーズンからはGalatasaray Odeabankに変更になった。
- 注15) 筆者の2009年から現在までのスペイン、フランス、ギリシャ、イタリア等欧州11か国での現地調査による（未発表資料）。
- 注16) 育成期の状況については第2報を参照されたい。
- 注17) 筆者の2015年と2017年のセルビアでの現

地調査による（未発表資料）。

文献

- 石井 隆憲・三沢 伸生（2012）トルコ・イスタンブールにおける合気道の伝播と現状：その覚書（平成二十四年度 研究所プロジェクト 近代日本の民族スポーツ形成におけるアジア諸民族の役割）. アジア文化研究所研究年報, 47: 268-261.
- 石井 隆憲（2013）トルコにおける合気道の伝播と変容（スポーツ人類学, 一般研究発表抄録）. 日本体育学会大会予稿集, 64: 388-389.
- 松本 奈穂子（2003）トルコにおける民俗舞踊活動とナショナリズム. 日本中東学会年報, 18: 53-94.
- 野寺 和彦, 大神 訓章, 佐藤 智信, 川上あゆみ, 大島久美子（2011）平成 23 年度女子学生選抜バスケットボールチームトルコ遠征報告書. 玉川学園・玉川大学体育・スポーツ科学研究紀要, 12: 41-48.
- 佐野 浩（2007）トルコ人とトルコサッカー. 明大アジア史論集, 11: 66-73.
- 澤井和彦（2015）スポーツリーグのマネジメント. 原田宗彦・小笠原悦子編著, スポーツマネジメント 改訂版. 大修館書店, pp. 150-176.
- 諏訪 正則（2009）トルコサッカーを通して見えてきたもの. アナトリアニュース, 125: 42-45.
- Turkish Basketball Federation (online) TKBL All-Star (Women's League). [http://www.tbff.org.tr/en/events/tkbl-all-star-\(women's-league\)](http://www.tbff.org.tr/en/events/tkbl-all-star-(women's-league)), (accessed 2017-11-08)
- TÜRKİYE BASKETBOL FEDERASYONU (2013a) TÜRKİYE BASKETBOL LİĞİ (TBL) YÖNETİM ESASLARI YÖNERGESİ.
- TÜRKİYE BASKETBOL FEDERASYONU (2013b) TÜRKİYE KADINLAR BASKETBOL LİĞİ (TKBL) YÖNETİM ESASLARI YÖNERGESİ.